

技術継承の取組（暗黙知の継承）

“ポスト団塊の世代”が有する「暗黙知（言葉で表現することが難しい知識）」をどうやって若手に伝えていくのか？ベテラン職員が、試行錯誤しながら「体験談」を交えつつ、文書では伝わらない暗黙知の継承について、企業庁専門研修の内容を工夫し、取り組みました。

【取組内容】

○ベテラン講師の起用

各分野（事務・土木・電気・化学）のベテラン職員が講師となって、自らの長年の経験や教訓に基づき、「トラブル回避術」、「迅速な緊急時対応のポイント」、「業務への取り組み姿勢」などを伝授しました。

○講師チームの編成（チーム内OJT）

所属横断でベテラン職員と中堅・若手職員がチームを組み、チームで研修内容を検討し実技研修を実施しました。研修準備の過程でチーム内での暗黙知の伝承に取り組みました。

○実際に近い模擬演習

緊急時の対応は、日常業務において計画的に経験することができません。緊急時におけるトラブル処理に必要な感覚（主に視覚）をベテラン職員と共有するべく、できる限り実際に近い経験ができるよう、実働する機器や濁り水を用いた演習に取り組みました。

〈演習事例〉

- ・漏水
- ・洪水による河川の濁り
- ・水質汚染事故、設備事故等

この取組は、平成24年9月に開催されました“全国知事会第5回先進政策創造会議”において行財政改革分野の優秀政策として、表彰されました。

